

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第7回 酪農家同士の交流から刺激

# 酪農を続ける「目的」と「目標」とは— 自分と向き合い考える

地域交流牧場全国連絡会北陸ブロック(新潟県新発田市 マキバのすすめ 小野牧場) 小野 洋平

私は大学を卒業した2002年、実家の牧場に就農しました。作業経験ゼロ、知識ゼロの二男だったので、その後、跡取りになるなんて想像もしていませんでしたが、家庭の事情で後継者になりました。地域交流牧場全国連絡会(交牧連)は18年に入会。1980年生まれの42歳です。

### 築50年の牛舎を増改築、 ミルカを更新し給餌機も導入

牧場は新潟県新発田市にあり経産牛42頭、育成・未経産牛25頭(預託含む)を飼養しています。牛舎は築50年の対尻式つなぎ牛舎で、今年2月に32床の牛床を44床にするための大規模な増改築をしました。これに伴い、ミルカをレール付きの自動離脱式に変更した他、扇風機を増設し、配合飼料用自動給餌機やロールカッター、細霧装置を導入するなど、大きな設備投資を行いました。



出前授業で子牛と触れ合う児童と小野さん(左)

自給飼料は牧草13ha、トウモロコシ2.5haなどを作付け。作業に使うトラクタなどの機械は近隣酪農家と共同で購入し、皆で利用しています。牧場の労働力は私、妻と代表である父の3人です。

飼養管理では、乾乳牛と搾乳牛が隣り合わせにならないよう場所替えを頻繁に行うなど牛の配置で工夫をしています。搾乳牛についても餌の給与量が同程度の牛が隣になるようにして盗食によるロスを減らしています。

繁殖管理で気を付けているのは、飼料会社の担当者や獣医師に助言を求めること。例を挙げると、NOSAI新潟が実施する家畜検診車による検診(代謝プロファイル診断)を年2回受診していますが、この際に血液検査データをコンピュータで統計処理することで、牛群の潜在的な問題点が早期発見できるようになります。

作業開始は通常午前5時30分。日中は除糞や牛舎内の細かな仕事、自給飼料づくりなどを行い、夜の



等身大の牛の布幕や飼料サンプルを用いながら、乳牛や牛乳について説明



地元の普通科高校で行った出前授業。年齢に合わせて説明する内容も工夫している

作業終了までほとんど休みはありません。作業後はオンライン勉強会へ出席する他、趣味の卓球や読書をして過ごしています。

### 酪農家との情報交換が交牧連の大きな魅力

交牧連に加入する以前から、子牛を学校に連れて行く出前授業などの酪農教育ファーム活動や、数件の牧場体験を受け入れていました。

入会の当初の目的は、参加者の体験中のけがなどを補償する「施設賠償責任保険」と、提供した飲食物などで参加者が体調を崩した場合にその治療費を補償する「生産物賠償責任保険」の団体保険に加入することでした。

しかし、実際に交牧連の活動に参加してみると、コロナ禍でもオンラインで交流が図られ、たくさんの学びがありました。飼養条件が似ている牧場、また逆に全く環境の違う牧場の経営主や後継者が全国各地から集まり、情報交換できるのは非常に魅力的だと思います。またここ数年はコロナ禍で、酪農教育ファーム活動を中止していますが、小中学生に酪農や牛乳・乳製品の素晴らしさや価値を伝えるため、そして私自身の酪農経営へのモチベーションアップのためにそろそろ再開しようと考えています。

何事にも「目的」と「目標」があります。私と私の大切な人を笑顔にするのが目的。それを達成するための所得800万円や作業の生産性向上などが目標です。私の場合、日々の作業に追われると目標を達成することが目的になってしまうことが多々あります。私が目標を達成することで誰が喜んでくれるのか、そしてどんな未来が待っているのか。定期的に自分の心と向き合う時間をつくるのが大切だと思っています。

### 時間の消費や浪費を減らし 未来に投資する

さて、全国の酪農家の皆さん、突然ですが「50万」もらえるとしたら何に使いますか? 「何に使うか」は大きく

分けると消費・浪費・投資の三つに分けられます。消費は生活する上でどうしても必要なもののために使うこと。浪費はなくても良いものを使う、いわゆる無駄遣い。そして投資は未来の自分のためになるように使うことです。

ちなみに50万の単位は「円」ではなく「分」です。1年間は365日、1日は24時間、1時間は60分。全部掛け算すると52万5,600分で約50万分です。人間は1年間生きるために皆平等に約50万分をもらっているのです。

時間はためられないので、その都度使い切るしかありません。そしてその使い方は前述した消費・浪費・投資です。どれも生きていく上で必要な要素ですが、バランスを考えずに自分の欲求を優先させると、消費と浪費で全てを費やすことになります。それでは将来得られるものがなくなってしまいます。

そこで大事になるのが投資の時間を持つことです。では投資の時間とはどのようなものなのでしょう。私は「何をするか」ではなく、目的に向かって「どのようにするか」を考える時間だと思います。

交牧連の活動を通じ、いろいろな経営体の事例を見て、聞いて、自身の牧場に生かせることはないか—その視点で考えると、成功事例より失敗事例の方が要因に共通性があり再現性が高いといえます。まだ



小野さんは自身のモチベーションアップも目指し、酪農教育ファーム活動の再開を検討中

### 牧場概要

牧場名: マキバのすすめ 小野牧場  
代表者名: 小野 健太郎  
所在地: 新潟県新発田市大友  
総飼養頭数: 65頭(うち搾乳牛40)  
年間生産乳量: 260 t  
飼養形態: つなぎ飼い  
飼料畑面積: 17ha(イタリアンライグラス、オーチャードグラス、トウモロコシ)  
牧場スタッフ: 3人(本人、妻、父)  
交牧連加入年: 2018年  
主な活動: 近隣小学校への出前授業

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
メール: koubokuren@churaku.jp  
ホームページ: <https://www.dairy-farm.jp/>  
フェイスブック: <https://www.facebook.com/koubokuren>



【交牧連 HP】